主要科目の特長（国際文化学部国際文化学科）

国際文化学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

（1）NGU 教養スタンダード科目

・キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

・自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

・情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実は、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、ノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

・言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

・社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

（２）専門科目

(1) 語学科目

≪語学科目≫は、英語その他の語学について、様々な角度から語学能力や関連の知識をつけることをめざして、必修科目として「基礎英語 1・2」「英語表現 1・2」を配置している他、選択科目として以下の科目を配置しています。

「TOEIC 英語基礎 1・2」「TOEIC 英語実践 1・2」

また、選択必修科目として、ドイツ語、フランス語、スペイン語および中国語について、それぞれ 8 科目ずつ 1・2 年次に配置しています。

(2) 言語文化科目

≪言語文化科目≫は、次の 4 つの科目群から成っています。

・「英語で学ぶ」科目群：英語に関する知識・技能を伸ばしながら、かつ英語を用いて世界の諸相や地球的課題について考察することができるよう、選択科目として以下の科目を配置しています。

「英語で学ぶ日本の文化」「英語で学ぶ世界の文化」「英語で学ぶ異文化理解」「英語で学ぶ時事問題」「英語で学ぶ SDGs」「英語で学ぶ環境・エネルギー問題」「英語で学ぶ健康と食糧」「英語で学ぶ差別問題」「英語で学ぶ平和」「英語で学ぶ世界遺産」「英語で学ぶ教育問題」

・第 2 外国語に関する科目群：第 2 外国語にあたる言語の知識を深めながら語学能力を向上できるよう、選択科目として以下の科目を配置しています。

「ドイツ語で学ぶドイツ文化・事情」「フランス語で学ぶフランス文化・事情」「スペイン語で学ぶスペイン文化・事情」「おもてなし中国語」「実践中国語」「コミュニケーション中国語 1・2」「生活中国語」「日常中国語」

・アジアの言語に関する科目群：アジアの複数の言語や文化について学べるよう、選択科目として以下の科目を配置しています。

「韓国語 1・2」「フィリピン語と日常世界 1・2」「基礎インドネシア語」「検定インドネシア語」

・言語学・言語教育に関する科目群：言語的な知識を深めたり、言語教育の基礎について学んだりすることができるよう、選択科目として以下の科目を配置しています。

「ことばと音声」「日本語学概論」「日本語教育学入門」

(3) 国際文化科目

≪国際文化科目≫は、国際文化学修の根幹をなす重要な科目を集めています。必修科目の「国際文化論」で文化のあり方の基本を理解した上で、選択科目として以下の科目を配置しています。

「人間行動論」「比較認知科学」「比較行動学」「日本の民俗学」「英米文学概論」「英米文学史」「環太平洋地域研究」「現代アジア文化社会論」「日中関係論」「アジア政治経済論」「アジア地域研究」「ジェンダー論」「世界遺産論」

(4) グローバル文化科目

≪グローバル文化科目≫は、文化・歴史・社会・宗教・経済などについて、総論的に世界を概観する科目から、各論的に各地域に特化した科目までを用意し、世界の多様性を複眼的に見る力を養います。選択科目として以下の科目を配

置しています。

「グローバル文化社会論」「宗教人類学」「ヨーロッパの思想」「ヨーロッパの文学」「ヨーロッパの芸術」「異文化コミュニケーション論」「比較・文化社会論 1・2」「キリスト教文化論 1・2」「宗教と平和」「欧米文化論」「現代中国事情」「南アジア文化社会論」「グローバル・ヒストリー」「中国社会経済論」「イスラム世界論」「グローバル文化実習」

(5) 国際協力・共生科目

≪国際協力・共生科目≫は、さまざまな地球的課題に対し、多角的な眼をもって理解し、主体的に考え、解決・改善に向けて行動できる力を養います。選択科目として以下の科目を配置しています。

「SDGs 理解」「国際協力・共生実習 1・2」「多文化共生社会論」「国際関係論」「国際環境論」「国際人権論」「国際平和学」「開発社会経済論」「国際移民論」

(6) 国際日本学科目

≪国際日本学科目≫は、世界のみならず、日本の歴史や伝統文化などを多角的な視野から学ぶことで、グローバル社会の中での日本文化を深く理解することが可能となります。選択科目として以下の科目を配置しています。

「日本文化論」「日本対外関係史」「日本アジア交流史」「比較宗教論」「情報文化論」「日本文化史」「日本の思想」「日本社会論」「フィールドワーク」「日本地域史論」「日本のポップカルチュアとアジア」「日欧交流史」

(7) 関連科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学やスタディツアーへの参加を推奨しています。本学が実施する中・長期留学に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。また短期留学やスタディツアーでの学修は、「海外事情 1～4」などで認定されます。

また、様々な資格や検定試験に挑戦した成果を認めるための「国際文化能力開発 1～3」を配置してあります。

（３） 演習科目

「国際文化基礎演習 1・2」では広く国際理解・国際交流に関する自主的学習のための基礎を形作ります。「演習」では、担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。「演習」の選択にあたっては、学生のみなさんが希望する教員・専門的分野を選択し、教員の選考を経てゼミの一員となることができます。

◎専門科目の一部をピックアップ

check! 異文化コミュニケーション論

何を学ぶのか

文化と言語の多様性について探求する。

ドラマ、アニメ、マンガといった大衆文化を題材に、文化と言語の多様性を多角的に深く探求します。歴史学やコミュニケーション学の視点を通じて、異文化理解の理論と実践を学び、自分と異なる視点を理解しつつ意見を共有する力を磨きます。

将来にどう生きるのか

国際的な視点で人間関係を築けるようになる。

異文化コミュニケーションの知識とスキルは、日常生活や仕事のあらゆる場面で活用できます。他者の価値観や文化的背景を尊重しながら柔軟に対応する力を身につけることで、国際的な視点を養い、新しい人間関係や信頼を築く大きな助けとなります。

check! キリスト教文化論1

何を学ぶのか

キリスト教音楽の歴史について学ぶ。

キリスト教音楽の歴史について実際に様々な音楽を聴きながら、歌詞付きの曲の場合には歌詞の意味についても学びます。織田信長や豊臣秀吉らもキリスト教音楽に触れていた可能性があることについても触れていきます。

将来にどう生きるのか

宗教と音楽を通じて豊かな人間性を育む。

世界人口の約3人に1人がキリスト教徒であると言われています。宗教は人間や文化について知る上で重要なもの。キリスト教について音楽を切り口に理解を深めることで、人間性を豊かにする教養を養うことができます。